

# ♪ シニア便り ♪

定期演奏会の成功に向けて

第19回定期演奏会・実行委員

伊藤 英明

一筆吹奏

『楽団運営スタッフとして』

古川 亨

『大役を仰せつかり』

廣瀬 安孝

『Fシングルです。』

ホルン 藤田 和也

『謎はない』

コントラバス&サクソ 高橋 徳真

チューニング広場 ~王宮の花火にまつわる話~

副団長 常任指揮者 中村 暁生

チューニング広場 平成24年度定期総会報告

伊藤 英明

事務局からのお知らせ



第21号 (2012年7月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局

編集 シニア便り・編集部

## 定期演奏会の成功に向けて

第十九回定期演奏会実行委員

伊藤 英明

本誌第二十号(三月号)の本欄で「定期演奏会まで、まだまだ時間があるようですが、その時は直ぐに来てしまいます。」と記しましたが、本当にあと三か月に迫り、練習も最終段階に入ってきました。団員の皆さんの協力もあって、準備の方は順調に進んでおります。

## チラシ・チケットの

制作及び販売

鴨田実行委員の友人であるプロカメラマンのNさんのご協力によりプログラム表紙を飾る素晴らしいホルンの写真を撮影して頂きました。この写真を使ったチラシとチケットの図案も出来上がり、後は印刷屋に持ち込むだけです。八月上旬にはチラシ及びチケットを皆さんにお披露目できると思っております。

チラシを置かせてもらう場所については、これまでの音楽店や区役所、区民センターなどの公共施設に加えて、地域センターや図書館等も予定

しており、札幌市全体で七十五か所程になるでしょう。

また、八月中旬にはチケットを皆さんにお配りして、販売のお願いをしようと思っております。当団では団員に一定枚数のチケットを買い取ってもらい、いわゆるノルマ・チケットはありませんが、家族や友人・知人に五枚程度の販売をお願いしております。「かでの2・7」大ホールを満席にできればと夢を見ています。演奏会のプログラムも、九月上旬には皆さんにお披露目できるように制作を進めています。

## 共演小学校と

合同演奏について

昨年まで五回に渡って共演してきた「旭小学校金管バンド」とは一応の区切りをつけて、発展途上にある新たな小学校バンドとの共演をスタートさせようと、トランペットの石井さんに学校の選定をお願いしております。札幌市豊平区月寒(札幌ドーム近く)にある「札幌市立しらかば台小学校」の部員二十名程の発展途上吹奏楽部です。何度か練習の様子を観てきましたが、八月五日にkitaraで開催される吹奏楽コンクール小学校の部・札幌地区大会に出場す



るために猛練習中です。合同演奏曲はこのコンクールで演奏する自由曲「福島弘和作曲の吹奏楽オリジナル曲「クラムボン」はわらつたよ」を私達シニア吹奏楽団と一緒に演奏したいという子供達の強い希望があって決定されたと聞いております。

## ブラスアンサンブルについて

昨年のクラリネットアンサンブルサクソアンサンブルに続いて、今年も「ホルンアンサンブルをやってみよう」ということになりました。実行委員会の仕事とも重なり、忙しい状況ですが、現在は何曲かの候補曲の試奏を行っています。練習回数も限られており、旨くまとまらないかもしれません、年齢差を超えた素敵なパフォーマンスを披露できればと思っております。

現在、皆さんに定期演奏会の出演確認を進めているところですが、昨

年を上回る五十六名程になる予定です。ステージ・マネージャーをお願いしているトロンボーンの上浦さんは全員をステージに乗せるために四苦八苦していることと思います。

演奏会まで残り三か月弱となりました。団員の皆さんが楽しく演奏でき、素晴らしい演奏会になるよう、実行委員一同、奮闘中です。皆さんの暖かいご支援をよろしくお願い致します。

## 一筆吹奏

『楽団運営スタッフとして』

TP 古川 亨

この四月に、柿岡事務局長よりご指名を受け、トランペットパートから理事候補として選出され、過日の総会において理事に任命されました。この楽団が、産声を発した、平成五年六月に林団長よりご指名を受け、事務局業務を六年程担当させていたから、久々の運営スタッフ入りです。

さて何ができるのかな?疑問を持ちながらの理事就任となっていました。

今のこの楽団は団員も増え団費の収入も沢山人るようになってきて、

団費である程度活動資金が賄えるようになってきています。

かつてのように、北海道や関係機関に対して補助金の申請をしなくても活動ができるようになってきて、大変恵まれていると思います。この間、運営に当たられた方や団員の皆さんの努力の賜物だと思います。

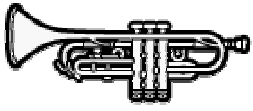
思い返しますと、林団長が長い間かけて吹奏楽の普及に努めてきた功績は今改めてお話をする必要がないと思います。先生の最後の事業がこの楽団だと思われれます。

発足当時には、このようなバンドは栃木県に一つ存在していただけだと私は記憶しています。

林先生が全国に先駆けて設立したバンドです。

設立して二十年。私も皆も、年をとりましたが、このユニークな楽団の一員として活動することができ、うれしく思っています。

皆で作りに上げたこのバンドで微力ですが、与えられた役割を果たして参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 『大役を仰せつかり』

T・sax 廣瀬安孝

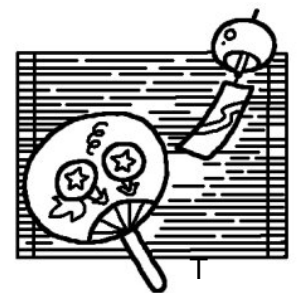
団員の皆さん、こんにちば。

還暦も過ぎて長かった東京での単身赴任生活も定年退職と共に終止符。その後、札幌に戻りて五年。嘱託パート勤務を始めながら時間を見付けては市内の大・小コンサートホールに出向いて行き、各々の吹奏楽団の演奏を拝聴していた日々を過ごしております。

数年前の秋、十月のある日「かである2・7」に出向いたところ北海道シニア吹奏楽団の定期演奏会が開催中。客席から「フィンランディア」を拝聴しながら遠い日の出来事を思い出していたのであります。

小・中・高校の九年間、部活で楽器を片手に譜面と睨めつこの日々。あの時は雨の中で、あの日は炎天下での音楽パレード。そして高校三年間のシベリウス作品の「フィンランディア」「カレリア組曲」etcを自由曲に引つ下げてのコンクール出場。そして卒業と共に楽器・吹奏楽から「足を洗う」つもりの別離。・・・と思いきや、今度はエレキサウンドに「魅せられし」ギター。「心のときめき」を感じ当然の如く学生仲間とのエレキ・バンドでチョ「コッ」と活動。今度こそ楽譜と「睨めつ」も「ジ・

エンド」と思い楽器ともオサラバ。あれから四十数年。



「譜？」（ふっ）と気が付くと、またまた当楽団でT・sax片手に再び譜面と「大格闘」。

そんな中、今春、五年間の勤務も無事終了し二回目の定年を迎えこれから少しは「時間を割いて練習に専念しよう」と思っていたところ今般、当楽団の監事と云う大役を仰せつかり身に余る思いが致して居ります。

この先当楽団に喜寿？傘寿？？・・・いつまでお世話になれるのか判りませんが、こんなジイジーで良ければ動けるうちに、楽団の為に「何かできる事が有れば」と思ってお引き受けしました。『老体に鞭打って』・・・と云うと当団の諸先輩各位には「六十代はまだまだ若い」と言われそつですが。

しかし大役をお引き受けした以上微力ではございますが監事役として鋭意尽力させて戴く所存でありますので、今後とも永く「目で宜しく」お願い致します。

## 『F シングルです。』

ホルン 藤田和也

中学以来のウエストサイドストーリーメドレー楽しくやらせていただいております。

アメリカの後打ち痺れます（笑）硬い文章、苦手なのでこんな感じで失礼します。

「自己紹介文を。」とのことでしたので、吹奏楽に浸かっていった過程を振り返ってみようかと思えます。

小学校の頃、近所の武道館で剣道を習っていたのですが、そこには、鼓笛隊の笛がない「鼓隊」というものがありました。

小太鼓、大太鼓など普段触れない「楽器」に触れる楽しさと、友達とみんなでリズムを揃える楽しさがあり、剣道そつちのけではまっていたのが始まりかと思えます。

中学に上がり、鼓隊の友人とまた一緒に太鼓が叩きたく、吹奏楽部に入部しました。

入部した吹奏楽部で初めて渡された楽器がホルン。F シングルです。ほんとに難しかったです。

まったく音があたらす、ひたすら、ロングトーンの日々でしたが、楽しかったです。今もぼろぼろこぼしますが：（汗）

なかなかうまくならず、また、部員が多くひとつの楽器を2人で使う状態解消のため、2年の途中からユーフォにまわされたのですが、最初に与えられたホルンの魅力にとりつかれ、高校からまたホルン。

当時、バイトもせず、母親に無理言って買ってもらったのが、今使っているFシングルスです。

名前を覚えるのが苦手です。酒好き、コンサドーレ好き、もちろん、吹奏楽も好き。無口で何を考えているかわからないかも知れませんが、特になにも考えてません。気軽に声をかけていただけるとありがたいです。よろしくおねがいします。



### 『謎はない』

Contrabass & Saxophone  
高橋 徳真

(旦那)『あそこは、あたしが義太夫を語った床(とこ)じゃないか』

(丁稚の定吉)『あそこは、あたしの寢床でございます』

8代目桂文楽の得意ネタ「寢床淨瑠璃」のサゲ(オチ)である。

主人公は商家の旦那、彼は義太夫に凝っており、度々披露しているものの、何せヘタであり、聴く側は辟易しているという。丁稚の定吉も被害者のひとり。いわゆる「ジャイアンリサイトル」である。

旦那の義太夫を聴きたくないが為に、店の従業員や長屋の店子は、偽りの用事を作り出し、回避に成功したかに思えたが、結局その嘘が発覚してしまふ。怒った旦那は、店子を今すぐ追い出せとふて寝をする。番頭は、慌てて店子を説得、甘受して皆リサイトル会場へ。

そして、恐るべき義太夫が幕を開ける。絶妙に外された節回し。この苦痛に耐えるべく、聴衆は酒を飲み居眠りをする。再び旦那は激昂するが、丁稚の定吉だけは号泣している。旦那は定吉に対し、どの演目に感動したのか尋ねたところ、どの演目でもないらしい。では何に對して泣い

ているのか尋ねたところ、旦那の座っていた場所を指さす。そして冒頭の分がりづらいサゲとなる。ちなみに、私は義太夫を語る場面で終わる桂枝雀の嘶を好む。

新たな場所(団体)で演奏させて戴く機会に恵まれた時、私はよく「寢床淨瑠璃」を聴く。それは、自己の演奏技術や人格の「未熟さ」を改めて再確認するとともに、作家吉川英治氏のいう「我以外皆我師」を自らに再認識させるためである。

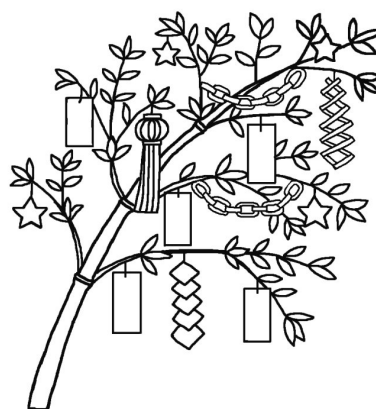
昨年の定期を拝聴させて戴いた時に感じた、演奏者と聴衆との「近接性」、つまり諸先達方の「人格」という架橋が、ステージと客席の「両岸」を繋ぐという基底。この稀有な団体で、私は演奏者からアプローチすることになると思つと、我が無能ゆえに諸先達方の足跡を汚すことになりはしないかと恐れている。

しかし、「音楽は聴くだけでなく、下手でもいいから何か楽器を手に取って演奏することで、音楽の喜びが増し、人生が豊かになります」という、フルート奏者の吉田雅夫氏の言葉を拠所とし、実践させて戴こうと思つておりますので、宜しくお願い致します。

ここまで書けば、私に對して「謎はない」と認識して戴けないでしょう。今後、機会がありましたら、

更なる私の奇怪ぶりを披瀝したいと存じます。

最後に、北海道シニア吹奏楽団を紹介して戴いた村山さんに、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。



### チューニング広場

#### 「王宮の花火の音楽」

にまつわる話

副団長 常任指揮者 中村 暁生

この稿が皆様のお手元に届く頃はロンドン・オリンピックの話で盛り上がりつつある時期と重なるかと思えます。

私たちの今年の定期演奏会では奇しくもイギリスに関係のある曲が二つ取り上げられています。一つはピートルズの「ヘイ・ジュード」でありもう一つはヘンデルの「王宮の花火の音楽」です。

作曲家のヘンデルは1685年、北ドイツのハレで生まれ、ハンブルグのオペラ劇場のヴァイオリンやチェンバロ奏者をしていましたが志を立ててその時代の音楽の中心地イタリアに留学、オペラの作曲家として有名になりその後イギリスに渡って大成功を収め、四十二歳の時イギリスに帰化、七十四歳で亡くなった時は国葬に準じる扱いで遺骸はウエストミンスター寺院に葬られました。

ドイツ名はゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデルですが帰化してからはジョージ・フレデリック・ハンデルでイギリスでは今でもハンデルと呼ばれイギリスの誇る作曲家の一人に数えられています。生涯独身貴族で豪華な邸宅に住みヨーロッパの宮廷楽長として、当時教会のオルガンニスト兼作曲家であったバツハの四十倍の俸給を得、遺産はあのモーツアルトの年俸の九十年分にあたるほどであったと云われています。

イタリアオペラや「メサイア」をはじめとするオラトリオ、各種の協

奏曲や「水の上の音楽」などの組曲を含め数多くの作品を残しました。

さて、「王宮の花火の音楽」ですが時は1749年、今から264年前（日本では江戸時代の中期、八代將軍徳川吉宗の時代）イギリスではジョージ一世の時代。

オーストリア継承戦争が終わったことを祝ってハンデルの音楽を聴きイタリアから呼び寄せた職人が打ち上げる花火を楽しむ催しが四月二十七日、ロンドンの中心地グリーンパークにそのために建設されたパヴィリオンで行われることになり、そのリハーサルが二十一日にありましたがそれを聴くために集まった人が一万二千人。

テムズ川を渡る橋は大渋滞となり馬車で来るお客さんは会場まで来れなかつたそうです。また、本番は午後六時からだったので、電燈の無いこの時代、照明用のランプを集めるのも大変だったようです。

当日のオーケストラは二十四本のオーボエ、十二本のバスーンとコントラバスーン、九本のホルンと九本のトランペット、五個のフィールドラムと三組のティンパニにハンデルの希望で弦楽器も加わって総勢百人くらいの大編成になったと記録されています。この時の楽譜は作曲家

自身によつて何回か書き換えられ、後に現代のオーケストラのためにイギリスの指揮者であり編曲者でもあったハミルトン・ハーティが「水の上の音楽」とともに編曲したものが現在使われています。今回私たちが演奏する楽譜はこのハーティ版を吹奏楽用にウイリアム・A・シエーフアーが編曲したものを使います。

264年前、百人編成で演奏された当時の光景を想像しながら、その壮麗な響きと優雅な宮廷舞踏の雰囲気や皆様と一緒に再現できればと願いつつこの稿を終わります。



### 平成二十四年度定期総会報告

去る四月十五日「中村屋旅館」において平成二十四年度定期総会を開催しました。

冒頭に中村副団長から総会開催に当たつての挨拶がありました。

「平成二十三年度は定期演奏会、シバルハイツ、ライオンズクラブの演奏会で多くの成果があった。これも、実行委員会、役員、団員の皆さんの協力の賜である。平成二十四年度の課題は色々あるが、第一には練習場の問題である。セミナーセンターは広さや楽器倉庫等の点で恵まれているが、『音響面』『思い通りに時間確保できない』『冬期間の暖房』等の問題がある。団員の皆さんのご意見や協力を頂きながら改善していきたい。第二に、当団は演奏技術を第一とはしていないが演奏団体である以上は演奏技術の向上も必要である。今年も北部方面音楽隊での研修を考へており、大勢の方に参加して欲しい。第三に、来年は創立二十周年記念演奏会になる。既に準備委員会も立ち上がり検討が進められているが、大きな節目であるので良い演奏会にしたい。最後に、団の設立趣旨である『音楽を生涯の友』として良い音楽創り、良い仲間創りで今後も発展して行ければと思う。」

総会は委任状提出者を含めて出席者多数により成立が確認され、吉田和夫さんを議長に選出して議案の審議に入りました。



最初に柿岡事務局長から「平成二十三年度事業報告」「平成二十三年度決算報告」及び「監査報告」があり拍手多数で承認されました。引き続き、「平成二十四年度事業計画」(配付資料参照)の説明がありました。

続いて、第十九回定期演奏会の勸米良実行委員長から「演奏曲については二月末に全曲決定することが出来た。試奏は二十六曲と多かったが、試奏だからこそ色々な曲にも挑戦できる訳で、ご理解頂きたい。アンサンブルについては未定であるが、実施する方向で検討中である。お楽しみクイズは、楽器当てクイズ」とし、ホルン、トロンボーン、クラリネット、サクソの予定である。予算については緊縮でやっていく。団員の皆さんのご協力を宜しくお願いしたい。」との説明がありました。

更に、第二十回定期演奏会及び、創立二十周年記念行事についてクラリネット・パートの阿部(薫)実行委員長から「日程は平成二十五年十月二十日(日)十三時〜演奏会(かである2・7)、終了後に祝賀会(KKRホテル札幌)を執り行う。委員会は、最高顧問に林団長、顧問に中村副団長、実行委員長に山田、演奏会責任者に阿部(薫)、祝賀会責任者に石田、委

員はクラリネットパート全員+団員数名の体制とする。祝賀会招待者は団創立関係者数名を考えている。」との説明がありました。

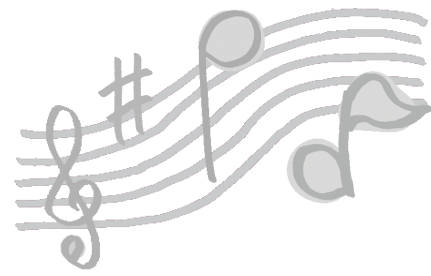
その他、新たな練習会場探しについては「楽器保管場所の確保を必須として引き続き継続する。」練習日程については「これまでの月二回から隔週に改め多少ではあるが練習回数を増やす。」

続いて、育児サービスの実施について石田理事から「育児サービスは乳幼児を持つ団員が、育児による団活動の中断や制限を少しでも緩和して、団の活動に参加して貰おうとするもので、具体的には『NPO法人当別町青少年活動センター・ゆうゆう24』から学生ボランティアを派遣してもらい、練習場内で育児サービスを行ってもらう。代金はサービス員一人一時間当たり千円+交通費なので、一回につき三時間、一名で対応して貰うと年間九万四千円程になり、半額を団費補助、半額を子供人数で割って親御さん負担にする。」との提案説明があった。

引き続き、「平成二十四年度予算案」(配付資料参照)の説明があり、その後、「事業計画、育児サービス、

予算案」について質疑・採決が行われ、全て拍手多数で承認されました。続いて、役員改選について事務局長から理事一名、監事一名及び、事務局長の改選について事務局の推薦説明があり、拍手多数で承認されました。なお、柿岡事務局長は退任することになりました。総会で承認された新役員体制は次の通りです。

団長	林 正輝
副団長	中村 暁生
理事	石井 邦紀 石田 由紀(再任) 伊藤 英明(再任) 長土居 梨那 古川 亨(新任)
監事	村山 幸恵 廣瀬 安孝(新任) 山田 光國
事務局長	伊藤 英明(新任)



次に、規約細則、運用規程の見直し、新しい制度導入等について、柿岡事務局長からそれぞれ提案説明があり、審議・採決が行われました。まず、最初に「団費の夫婦割引制度」について、「夫婦団員は年団費が四万円になるが、若干厳しい面もあるので三万円に割引く新制度を導入したい。」との提案説明がありました。採決は拍手多数で承認されました。

次に、団員以外の方が練習に参加する場合のビクター料金制度の導入について「練習場確保など練習に関わる全ての経費は団費で賄われているが、団費を納めていない方が無料で練習に参加する場合の不公平感を無くすためにビクター料金制度を新たに導入したい。料金は一回につき千円とする。なお、見学者(仮入団を含む)、エキストラ出演者を除く。」との提案説明がありました。料金を貰う/貰わないの線引きが難しいのではないかと、休団経験者からは料金を支払うことで気兼ねなく練習に参加できるので賛成です。」等の意見がありました。採決は拍手多数で承認されました。

次に、「入団期間の見直し」について、現在は、見学一か月後に仮入団、その後三〜四か月後にパート意見を

集約して正式入団となるため、長期間待たされてやる気を削いでしまう感じを見受けるので、期間を短縮したい。具体的には見字を含めて四回程度練習に参加後にパート意向をまとめてもらい、役員会で承認する事としたい。」との提案説明があった。採決は拍手多数で承認されました。

最後に、「パート定員の考え方の見直し」及び「長期休団者の扱いの見直し」について、まず「これまでのパート要員数の考え方は、休団者がいつ復帰しても以前のパートに戻れるように、休団者も在団と見なしてカウントしていたために、休団者の多いパートでは実質的には要員不足であるにも関わらず、数字上は定員を満たしており、練習や演奏会などに支障を来していた。このため、パート要員のカウントは在団者のみとし、定員に満たない場合はパートの募集を行うこととする。

また、休団者の考え方についても五年を限度に復帰の見込が無い場合には退団とする。なお、復帰時にパートが定員を満たしている場合にはパート内にて復帰に向けた個別の対応を行う事とする。」との事務局長からの説明の後、パート定員の考え方について中村副団長から「定員が設けられた当時は現在のような団員数

になることを想定もしていなかったが、演奏会場のステージの広さの問題や、音をまとめ上げるための管理上の限界等から、当時としては吹奏楽団の理想的な編成として決定した。現在でも間違っていないと思う。定員の考え方は、オーバーを絶対に認めないという事ではなく、目安と考えて頂ければと思う。」との説明があり、その後討議に入りました。討議では様々な意見が出され、まとめ上げるには相当の時間を要するとの判断で、議長から「この問題は指揮者の考えが基本になるので、将来の形を想定して議論をまとめるのは難しいと思う。従って、何か問題が発生した時にはその都度役員会で議論しながら、改善・解決して行くのが最善だと思うので、原案通り承認しては如何でしょうか？」との議長提案があり、採決が行われ、拍手多数で承認されました。

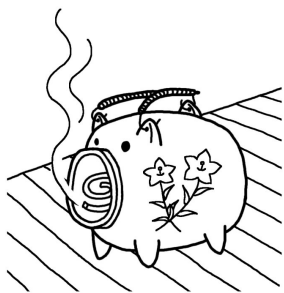
長時間に渡って活発な議論と沢山のご意見を頂き、ありがとうございました。  
(伊藤 記)

### 事務局からのお知らせ

前出の育児支援制度についてですが総会では学生ボランティアを利用する事で皆様の承認を頂きましたが、六月二十四日の練習より「札幌わかば」という会社の介護福祉士兼保育士さんを派遣して頂いています。

金額等の条件は以前とほとんど変わりませんが今後、お母さんやお子さんが安心して利用できるように試行錯誤しながら、ある程度変更が必要な部分に変更しながらこの制度が軌道に乗れるように努力していきたいと考えております。

今までにないこの取り組みに理解を示していただきましたこと、感謝いたします。



### うれしいお知らせ

ご出産

去る六月一三日、トランペットの高橋絵美さんが二八六〇グラム、五〇センチの元気な女の子をご出産されました。お名前は「遥香（はるか）ちゃん」。

団員一同、心よりお祝い申し上げます。お子さんを抱いて復帰されることを楽しみにしております。(編)



### 編集余録

・5月より、練習場に託児サービスの方が来てくれることになりました。我が子はいくと、最後まで泣かない日もあれば、大泣きして合奏参加を諦めた日もあり、なかなか慣れない様子ですが、小さい子を持つお母さんたちにとっては、練習中に子供

を安心して預けられ楽器が吹けるのは、とても嬉しいことだと思えます。団員の皆様、託児スタッフの方々のご協力に感謝しています。(池内)

・夏の始まりとともに、札幌近郊ではいろいろな音楽のイベントが開催されているようですね。吹奏楽やオーケストラ、ジャズ、ロック・・・ジャンルは違えど、いいものはいーですよ。毎年同じイベントに行っているわけではありませんが、この時期になるとワクワクします。

このワクワクを定期演奏会まで維持して、今年こそは心から楽しんで演奏したいと思っていますが、緊張などでそうなることはないでしょう(笑)。毎年、周りの方々には「打ち上げで飲めることを楽しみに頑張ろう」と励まされますが、私はビンゴ大会が一番楽しみだったりします。今年もいい演奏会になるといいですね。(長土居)

・今回より、シニア便りの編集長を仰せつかってしまいました、石田です。今回のシニア便り、お楽しみ頂けましたでしょうか。私事ではございますが、四月より人事異動があり、今までお気楽な(?)パート介護職

から責任ある立場に立たされる事になりました。このシニア便りも私が付きまとうのでしょうか・・・私のように細かい肩には荷が重すぎますウ(笑)・・・冗談はさておき。今後も団員のみなさんの交流の手段として、団運営の潤滑油としてその存在を活用して頂けるように頑張りますのでご意見・ご要望のある方はこっそり私にお申し付けください。ただしご希望に添えるかどうかは保証の限りではございません(笑)(石田)

なお「チューニング広場」の「管弦楽法つまみ食い」は次号に掲載させていただきます。

